

佐渡島開発総合センターホール リニューアル記念

佐渡人形芝居上演会

開催プログラム



布施画伯「佐渡人形歴史絵」(佐渡市教育委員会所蔵) 撮影:池田雄彦

日時

令和3年7月18日(日)

第1部 9:00~12:00

第2部 13:00~16:20

会場

佐渡島開発総合センター3階ホール

主催 一般財団法人 佐渡文化財団 佐渡人形芝居保存会

共催 佐渡市教育委員会

プログラム

※各演目の開始時間はおおよその目安となりますのでご了承ください。

【第1部】

オープニング

9:00

開会

北見 治

(佐渡人形芝居保存会会長)

来賓あいさつ

渡辺 竜五(佐渡市長)

9:20

三番叟

真明座

9:50

ひらがな盛衰記 栗津ヶ原巴合戦の場

佐渡市立真野中学校

10:20

清水詣 五条の橋の場

大和座

11:05

ひらがな盛衰記 二段 源太凱陣物語

野浦双葉座

11:50

講 評

山本 修巳

(佐渡人形芝居保存会副会長)

12:00

休憩

【第2部】

13:00

説経人形 熊野合戦 四天王奮戦の場
のろま人形 木之助 生地蔵

廣栄座

新青座

14:00

天神記 十六夜最後の段

常盤座

14:55

山椒大夫 母子対面の場

大崎座

15:30

源氏烏帽子折 卒塔婆引き

真明座

16:05

講 評

山本 修巳

(佐渡人形芝居保存会副会長)

16:20

閉 会

＜観賞時の注意事項＞

○マスクを着用して、ご鑑賞ください。会場内では大声を出さないようお願いします。

○上演中、会場でのご飲食はできません。※熱中症予防のため、適度な水分補給は行ってください。館内はすべて禁煙です。

○上演の妨げとなるため、許可を受けた者以外の写真撮影やビデオ録画等はありません。携帯電話はマナーモードか電源OFFにしてください。

○感染者発生時に、入場者の個人情報を公的機関に提供する場合があります。

○その他、「施設予防に際しての予防対策ガイドライン」に基づき、換気の実施や設備等の消毒などを行います。なお、ご指示に従っていただけない場合、退席を求める場合もありますので予めご了承ください。

佐渡の人形芝居について

「佐渡は人形芝居の縮図」といわれ、伝承されている人形芝居は、日本の人形芝居の系譜を知る上でたいへん貴重なものとされ、「佐渡の人形芝居」として重要無形民俗文化財に指定されています。

「佐渡の人形芝居」は一人遣い形式で、①「説経人形」②「のろま人形」③「文弥人形」の三つの人形芝居を総称したものです。

①説経人形は、金平人形、高幕人形などともいわれ、江戸時代初期にはやりだした語り物の説経節の弾き語りにあわせて人形を遣う人形芝居です。語り手の大夫と人形の遣い手三人という座の構成で、遣いかたや衣装なども簡単で古風を残しているといわれています。

②のろま人形は、説経人形の幕間狂言として演じられる道化人形芝居で、主人公の道化役人形の喜(木)之助の名前をとり喜之助人形などともいわれます。のろまは佐渡の方言を巧みに交えたせりふで操られます。

演目の最後に喜之助は裸にされ、放尿(実際には水)をしておしまいとなりますが、この尿を浴びると子宝に恵まれるともいわれています。

上方ではそろま、江戸でのろまと呼ばれていたようですが、ちゃんとした形では佐渡にしか残っていません。佐渡へは、享保年間(1716～1736)に上方から伝わったといわれています(異説もあります)。

③文弥人形は文弥節にあわせて人形を遣うので文弥人形といわれます。文弥節は江戸時代に盲人たちの座語りとして受け継がれていましたが、明治3(1870)年に文弥節の太夫伊藤常磐ノ一(旧佐和田町沢根)と、人形遣いの大崎屋松之助(旧小木町、旧羽茂町大崎出身)との提携によって初めて文弥人形を成立させ、御殿を持つ二重舞台のある御殿人形に改良したことで人形芝居を発展させました。

佐渡の人形芝居を調査した佐々木義栄氏は佐渡の人形芝居のおもな特徴として以下のように述べています。

- ・人形芝居が説経人形であった。
- ・幕間狂言としてノロマ人形が登場し、説経人形も含めてノロマ人形(米馬人形)といわれていたらしい。
- ・遣い手が人形のかげにかくれて、姿を見せないように遣った。
- ・神社の祭りの余興として行われた。
- ・語り物の中に近松の作品があった。
- ・人形の頭は胴串につくりつけの、首が前後に動かないデックス人形である。
- ・文弥人形は着物の背をさいて、左手をそこから差し込み胴串を握り、サグリという系によって前後に動く頭にしたガクガク人形である。

ここでは概略を記しましたが、佐渡に3つの人形が伝承されていることは日本の人形史や佐渡の文化史を知るうえでもたいへん貴重なものです。どうか、伝承されている皆さまは自信をもって大いに芸風を磨いてください。

佐渡の人形芝居に関しては佐渡では山本修之助氏、佐々木義栄氏等による多くの研究がありますので、ご参照ください。

佐渡市教育委員会

佐渡博物館 館長 池田哲夫

(新潟大学名誉教授・日本民俗学会員)

会場「佐渡島開発総合センターホール」施設概要

佐渡島開発総合センター3階ホールは、公民館活動の披露の場として活用されてきましたが、イベントや学習発表会など、様々な市民活動につながるように改修しました。

○主な改修内容

- ・ステージの奥行を4.5mから6.2mへ拡張。
- ・照明機器やスクリーンの新設等、ステージ機能の向上。
- ・アンプ・操作ワゴンの新設など音響設備の改修
- ・軽量な天井材に取替え
- ・ステージ裏通路、スロープの設置

など



演目と出演団体のご紹介

演目

三番叟

あらすじ・みどころ

歌舞伎・人形浄瑠璃に、能の「翁」で舞う老人の舞が移入されたもの。開幕前に祝儀として舞われたほか、一幕物の歌舞伎舞踊としても発達した。

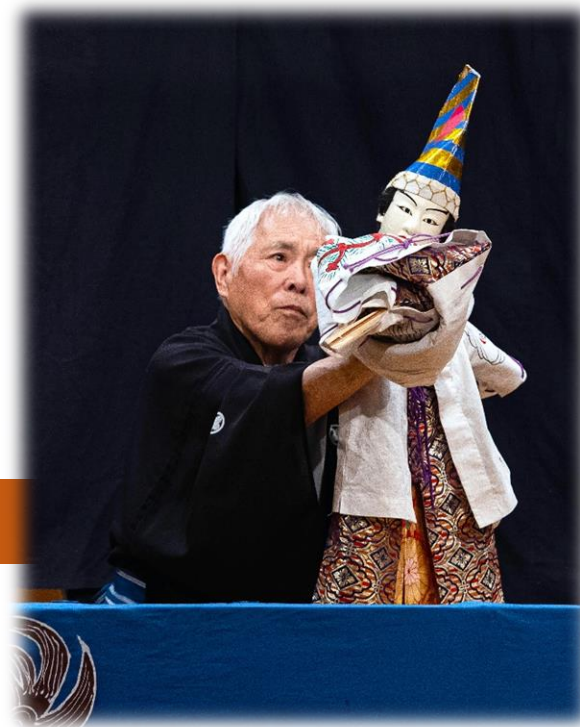
また、地方に伝播し、各地の民俗芸能に取り入れられたもの。多くは最初に演じられる。

扇子を使って『寿』の文字を描く。その最後の「点」を書く際にお客に向かって扇子を開く。

出演者

真明座

川野名 孝雄



演目と出演団体のご紹介

文弥人形 真野中学校 文弥人形クラブ

演目

ひらがな盛衰記 栗津ヶ原巴合戦の場

あらすじ ・ みどころ

〈あらすじ〉

夫であり主君である義仲の言いつけに背くことができず、巴御前（ともえごぜん）は、ただ一騎、栗津の松原を後に、後ろ髪を引かれつつ木曾へと馬を進める。

その時、突然わき上がる勝ちどきの声。あれは味方か、あるいは敵か。判断がつかないまま松の木陰にたたずむところへ、鎌倉勢が現れ「あれ、落ち武者よ」とかかってくる。

これを蹴散らして一息つくところに、秩父重忠が挑みかかりますが、巴御前にねじ伏せられる。佐々木四郎が組み付こうとしますが、秩父にいさめられ2人は巴御前を逃がすことにする。続いて、名乗り出た内田三郎は、巴御前に組み付きませんが、逆に首をねじ切られる。

和田義盛は松の木をねじ切って挑戦する。巴御前は、疲れも見せず和田と戦いますが「義仲を討ち取ったり」と呼ばれる声に驚き悲しむ。そして、ついに引き倒され、囚われの身となる。

出演者

3年生 瀧川 啓太 高野 満暉 飯森 信三郎
・人形遣い 2年生 藤井 逞 川崎 唯音
1年生 細野 我至 高橋 有輝 菊地 悠貴 笠井 惟鶴

人形座 概要

地 域	真野地区	太夫	—
取 組	平成14年度から	人形遣い	9名
座員数	9名	保存会加盟	—
主な演目	ひらがな盛衰記		



撮影：令和3年6月

文弥人形

大和座(やまとざ)

演目

清水詣 五条の橋の場

あらすじ ・ みどころ

〈あらすじ〉

我が子の命を助けん為、清水詣に来たときわ御前。帰路、有能な家来を求めんと、今夜も五条の橋に出向いた牛若。10年ぶりの再会となって、お互いの想いを確かめ、それまでの「わだかまり」を解消する。

清盛に頼まれ、牛若を討つ為、弁慶が現れ、2人の争いが始まる。弁慶の才能を確かめ、又、その意気を喜び、主従の交わりがいよいよ、始まる。

〈みどころ〉

弁慶・牛若の戦い
ときわ御前の内面の心もち

出演者

- ・太 夫 岡崎 弘
- ・人形遣い 佐久間 康 中川 キヨエ 本間 賢治 本間 博則

人形座 概要

地 域	羽茂地区	太夫	1 名
設 立	不明	人形遣い	4 名
座員数	5 名	保存会加盟	○
主な演目	清水詣 ほか		



撮影：令和3年6月

演目と出演団体のご紹介

文弥人形 野浦双葉座 (のうらふたばざ)

演目

ひらがな盛衰記 二段 源太凱陣物語

あらすじ・みどころ

〈あらすじ〉

ころは、平安時代の末期、今から830余年前の昔、おごる平家を西国へ追放し、朝廷から旭将軍に命ぜられた木曾義仲は京を護っていたのですが、部下の悪政が重なり、ついに朝廷は鎌倉の源頼朝に義仲追討の院宣を下し、源頼朝は弟の義経を総大将に命じ、それら武将の中に梶原平三景時（かげとき）らが加わり京へ出陣をすることになった。

景時には、長男源太景季（かげすえ）と次男平次景高の二人の倅がいるのですが、次男の景高は日頃の素行が悪く、兄の恋人千鳥をわがものにしようといふ病をつかって出陣しなかったところからこの物語は始まる。

舞台は鎌倉の梶原平三景時の館には、長男源太景季の誕生日の祝いの準備をしているところ、次男・景高はすきを見て千鳥を手籠めにしようとするところへ、京の戦場から飛脚として家来が母の延寿（えんじゅ）に手紙を届けに来る。その内容は、兄・源太景季が宇治川の合戦で先陣の後れをとり父に激怒され鎌倉へ帰され処分されることを家来から聞いた平次景高は喜ぶ、そこへ源太景季が帰ってきたので、合戦の様子をあえて聞く問答がはじまる。

〈みどころ〉

源太景季が宇治川の合戦の様子を語るところと、これを否定しながら問答する平次景高そして千鳥が源太景季を気遣いながら問答する場面が見どころとなる。

出演者

- ・太 夫

山本 定夫

後藤 唯

・拍 子 木

臼杵 春三
- ・人形遣い

臼杵 重信

臼杵 秀昭

山本 正明

山形 崇

山本 英樹

山本 芳

北野 悦子

臼杵 鈴子

臼杵 佳美

人形座 概要

地 域	両津地区	太夫	2 名
設 立	昭和 5 4 年	人形遣い	1 0 名
座員数	1 2 名	保存会加盟	○
主な演目	ひらがな盛衰記 ほか		



撮影：令和 3 年 6 月

説経人形 廣栄座(こうえいざ)

演目

熊野合戦 四天王奮戦の場

あらすじ ・ みどころ

〈あらすじ〉

糺（ただす）の大納言広長の讒言（ざんげん）により、紀州熊野新宮の奥に、おぐみの平太左衛門が君をあずかっていることを知り、四天王が焦り、君の無実を訴へんと義兵を挙げて都へあがらんとした。

また、広長もこのことを知り、十万余騎を率いて鬼の中山（なかやま）で両軍が出合い大合戦となり、雷現（らいげん）に定兼（さだかね）、独武者（ひとりむしゃ）、末宗（すえむね）が立ち向かうも傷を受ける。

その後、坂田の金平（きんぴら）と合戦となり、金平も危なかったが神力（じんりき）を願って雷現を討ち、源氏の御代（みよ）となる。

出演者

・人形遣い 霍間 和夫 山本 由明 金子 敏之 霍間 和子

人形座 概要

地 域	新穂地区	太夫	0 名
設 立	享保年間	人形遣い	4 名
座員数	4 名	保存会加盟	○
主な演目	生地蔵、木之助座禅 ほか		



撮影：平成29年当時

演目と出演団体のご紹介

のろま人形

新青座 (しんせいざ)

演目

木之助 生地蔵

あらすじ ・ みどころ

〈あらすじ〉

下の長者の伝九郎平が、後生を願う為、四国遍路に出かけるが、留守をする女房のお花に生地蔵をみやげに頼まれる。

道中、京の仏師を訪ね、25両で注文をし、四国へ渡った。この仏師は腹黒い男で、生地蔵を隣ののろまな木之助をだまし、身代わりにするを考える。木之助は、1両ではイヤだが7貫ならうけおうと約束をする。

下の長者は帰り道仏師の所へ寄り、生地蔵を受け取り、長い道中でもあるので、退屈しのぎに問答を始める。

何も言うなと仏師に念を押されたのに、間抜けな木之助はその問答にボタ餅が好き、ドジョウ汁が好きだの、17～8の女が好きだの、と答え、偽物と見破られ、最後には裸にされ逃げ廻る。

最後はシッコが出たいのを我慢しておったので、幕中央で一物を出して放尿し、幕となる。

出演者

- ・人形遣い 土屋 雅昭 土屋 健三 尾田 春俊 金田 文夫
- ・笛・太鼓 安田 勝治

人形座 概要

地 域	新穂地区	太夫	0 名
設 立	昭和45～46年頃	人形遣い	7 名
座員数	7 名	保存会加盟	—
主な演目	そば畑、お花の里帰り ほか		



撮影：令和3年6月

演目と出演団体のご紹介

文弥人形

常盤座(ときわざ)

演目

天神記 十六夜最後の段

あらすじ・みどころ

〈あらすじ〉

唐よりの使者裴分籍（はいぶんせき）は梅の名木「好文木」（こうぶんぼく）を持参した。左大臣藤原時平は右大臣菅原道真との勢力抗争の中、裴分籍を買収し丞相の謀反をねつ造します。これによって管丞相は九州大宰府へ流罪となった。

十六夜は菅丞相の御屋敷に子供を捨てようとしませんが、御台所に見つかってしまいます。この子は時平の隨身兼竹との間に出来た子供で、時平に知られると兼竹の命がないと語った。十六夜は慈悲深い御台所に子供を託して帰る。

大物浦管丞相を乗せた船が潮待ちをしている所へ、御台所は十六夜の子供を抱いてやってきたのであった。警護の蔵人は丞相との対面を許さず、同情する兼竹も力及ばず御台所を慰めた。後より追いついた十六夜は、蔵人が海上にて丞相を殺す計画を兼竹から聞かされた。十六夜は蔵人と刺し違えようと我が子を背に海に飛び込んだ。しかし、蔵人は母子共々射殺してしまった。これを知った兼竹は蔵人、船頭を殺して、母子の敵を討つのであった。

〈みどころ〉

海上を泳ぐ十六夜の姿を見ていただきたい。

出演者

・太 夫 久保 宗香

・人形遣い 和田 登志江 本多 ゆき 加藤ルリ子 鈴木 尚美
本間 由美子

人形座 概要

地 域	金井地区	太夫	1 名
設 立	平成元年	人形遣い	5 名
座員数	6 名	保存会加盟	○
主な演目	天神記 ほか		



撮影：令和3年6月

演目と出演団体のご紹介

文弥人形 大崎座 (おおさきざ)

演目

山椒大夫 母子対面の場

あらすじ ・ みどころ

〈あらすじ〉

奥州五十四群の領主、岩城判官正氏は、悪者のざん言によって九州の大宰府に流された。幼い子供たちと奥方は乳母を共にして越後の国直江津の浦にさしかかった時、人買いに騙され子供たちは丹後の山椒太夫に売られ、母は佐渡ヶ島に連れてこられる。

森鷗外の作では、ある日安寿は仲間の奴婢達の助けをかりて厨子王を逃がす。太夫は怒って安寿を折檻して殺してしまうのであるが、山本河内丞の作品では、行き絶え絶えの安寿は乳母のせがれ、宮城の小八郎と共に佐渡へ。しかし盲目となった母は小八郎が水を汲みに行っている間に安寿を村人どもと勘違いし打ちのめす。小八郎が戻り、母は安寿だと知り母子は再会を果たすが、安寿は息絶える。

〈みどころ〉

この場面の見どころは、文弥の泣き節と云われる息絶える安寿を母親が手をなで顔をなでるさまを文弥の泣き節で語る太夫と使い手の様子である。

出演者

- ・太 夫 本間 敬詮
- ・人形遣い 川上 公紀 藤井 春男 中原 明夫 本間 皓
川上 良江

人形座 概要

地 域	羽茂地区	太夫	1 名
設 立	明治から	人形遣い	6 名
座員数	7 名	保存会加盟	○
主な演目	姫山姥、国姓爺合戦 ほか		



撮影：令和3年6月

演目と出演団体のご紹介

文弥人形 真明座 (しんめいざ)

演目

源氏烏帽子折 卒塔婆引き

あらすじ ・ みどころ

〈あらすじ〉

平治の乱で敗北した源義朝は京都からいったんは尾張国の野間の内海で家臣、長田忠宗に討たれた。義朝の妻、常盤御前と三人の子（今若、乙若、牛若）も醍醐寺に隠れ住んでいたところを長田父子に発見され、京都、六波羅の平清盛に斬首されそうになっていた。一方では義朝の旧臣である藤九郎盛長と金王丸が義朝の墓前（卒塔婆の前）で久しぶりに再会し、初めは互いを非難しあっていたが、後に仲直りした。二人は六波羅へ行く。六波羅で長田の太郎は太刀取りにて、瀬尾の七郎検使と見えて、常盤涙の隙よりも自らは女なれども義朝の妻なるぞ、長田太郎後に廻り太刀振止んとせし所を盛長、金王飛んで出て、長田が胸板け討って常盤と子どもたちを救った。その後、藤九郎は雪の中、常盤の後を追って奈良伏見の里へ向かう。

〈みどころ〉

盛長と金王丸は、お互いに自分こそが義朝様の一番の忠臣であると譲らず、初めは相手を認めようとしない。しかし、最後には優劣のつかないほどにどちらも忠臣であると誤解が解け、堅い友情で結ばれる。何より大切に思っている義朝の卒塔婆を奪い合って折る男らしさ、六波羅を脱出した常盤と三人の子どもたちは、雪の降る中、奈良伏見の里へ向かった。

出演者

- ・太 夫 平野 公一
- ・人形遣い 逸見 政儀 西橋 健 川野名 孝雄 本多 ゆき
和田 登志江

人形座 概要

地 域	真野地区	太夫	1 名
設 立	昭和44～46年頃	人形遣い	5 名
座員数	6 名	保存会加盟	○
主な演目	源氏烏帽子折 ほか		



撮影：令和3年6月

佐渡の人形芝居の状況

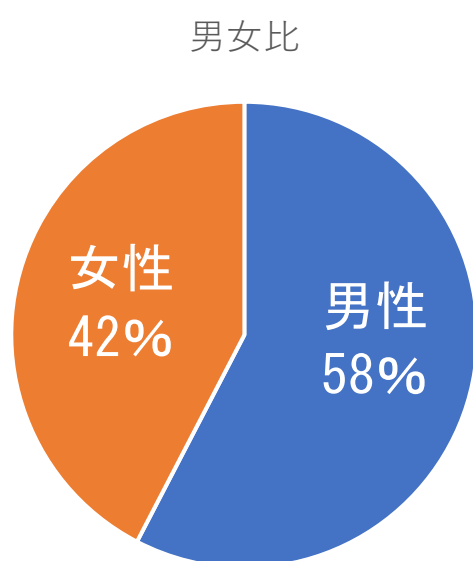
■ 調査内容（第1次調査）

- ・ 調査期間：令和3年6月16日～令和3年7月7日
- ・ 調査者：一般財団法人 佐渡文化財団
- ・ 調査対象：佐渡市内の人形座9座および文弥人形に取り組む中学校2校
(※今回の上演会に出演しない人形座も含む。)
- ・ 調査内容：各人形座の概要や活動内容等についてのヒアリング、記録。



■ 男女比

	人数
男性	34
女性	25
計	59



□男女比、年齢層

市内で人形に携わっている座員を見てみると、男女比は、ほぼ半数であり、60歳以上の座員が70%を占めている。

□人形座の遍歴

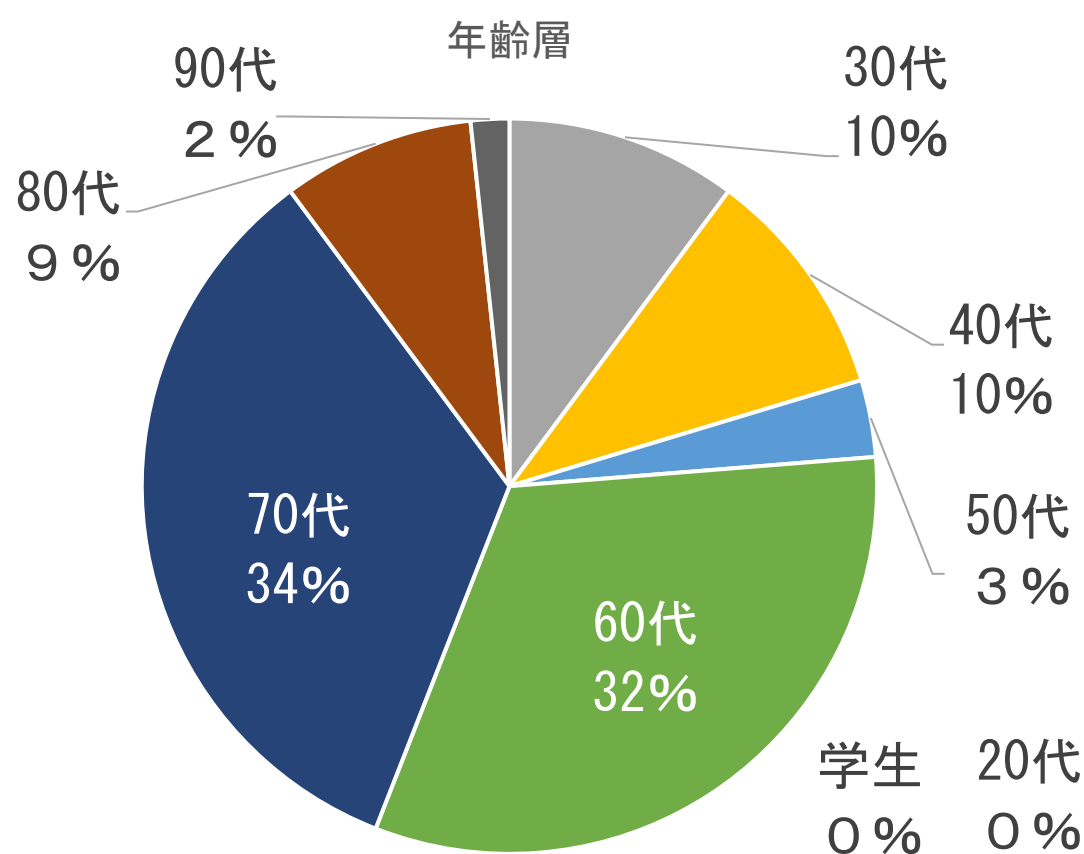
明治ごろまで、島内各地に存在した人形座は、現在、9座となっている。

□学校での取り組み

真野中学校と高千中学校は、総合的な学習の時間に取り組んでおり、地域の指導者から習っている。

■ 年齢層

	男性	女性	計
学生	0	0	0
20代	0	0	0
30代	3	3	6
40代	4	2	6
50代	0	2	2
60代	10	9	19
70代	14	6	20
80代	2	3	5
90代	1	0	1
	34	25	59



学校	1年生	2年生	3年生	計
真野中学校	4	2	3	9
高千中学校	7	4	7	18
	11	6	10	27

佐渡の人形芝居の状況

人形座別年齢構成

	真明座		大和座		野浦双景座		常盤座		大崎座		関栄座		廣栄座		新青座		虫紋座		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学生																			0
20代																			0
30代					2											1	1	2	6
40代	1		1		1												1	2	6
50代						1		1											2
60代		1	1		3	3		3	3		1	2	1		1				19
70代	2		2	1	2			1	2			3	1	1	5				20
80代		1						1	1	1			1						5
90代	1																		1
	4	2	4	1	8	4	0	6	6	1	1	5	3	1	6	1	2	4	59
	6		5		1	2		6	7		6		4		7		6		

他の人形座

関栄座(かんえいざ) 概要			
地 域	相川地区	太夫	0 名
設 立	昭和 5 8 年	人形遣い	6 名
座員数	6 名	保存会 加盟	○
主な演目	山椒大夫 ほか		

虫紋座(むしもんざ) 概要			
地 域	羽茂地区	太夫	1 名
設 立	不明 ※10年は経過している。	人形遣い	5 名
座員数	6 名	保存会加盟	—
主な演目	山椒大夫、国姓爺合戦 ほか		

高千中学校 概要			
地 域	相川地区	太夫	5 名
取 組	昭和 4 1 年から	人形遣い	1 3 名
座員数	全校生徒 1 8 名	保存会加盟	—
主な演目	ひらがな盛衰記		



撮影：令和3年7月

佐渡の人形芝居の状況

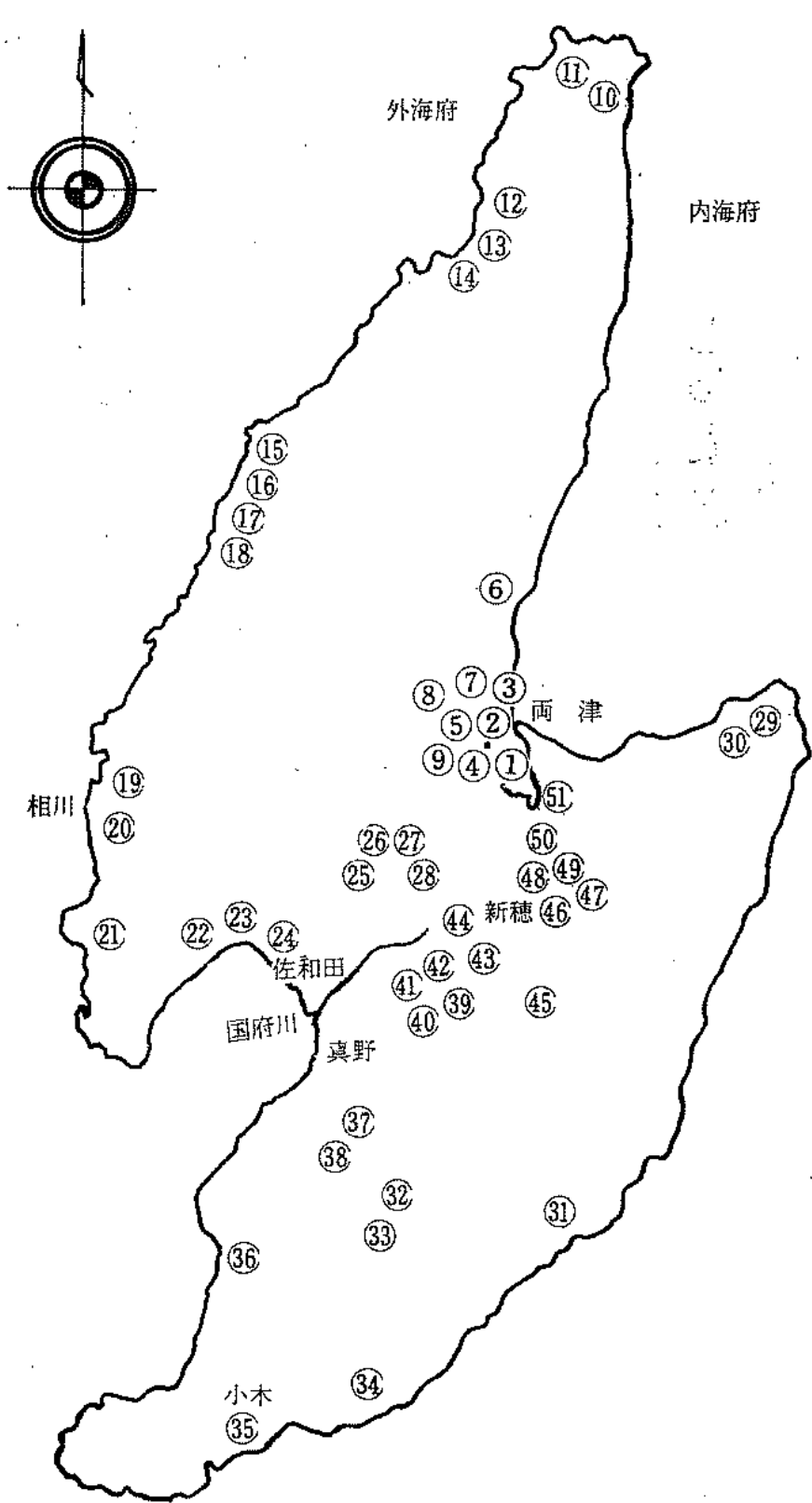
明治時代ごろの人形座

① 又兵衛人形	夷	⑮ 後尾人形	後尾	③⑤ 大崎屋人形	小木
② 治郎助人形	夷	⑮ 達者人形	達者	③⑥ 高崎人形	高崎
③ 弥一人形	夷	②⑦ 亥之吉人形	小川	③⑦ 黒山人形	黒山
④ 銀助人形	夷	②⑧ 大浦人形	大浦	③⑧ 笹川人形	笹川
⑤ 半四郎人形	夷	②⑨ 沢根人形	沢根	③⑨ 三四郎人形	竹田(大川)
⑥ 長兵衛人形	椿	②⑩ あやめ人形	五十里	④⑩ 甚蔵人形	吉岡
⑦ 久左衛門人形	夷	②⑪ 窪田人形(永楽座)	窪田	④⑪ 善蔵人形	中沢田
⑧ 弥平次人形	白山	②⑫ 中興人形	中興	④⑫ 徳兵衛人形	竹田
⑨ 三右衛門人形	野町	②⑬ 新保人形	新保	④⑬ 後山人形	後山
⑩ 円蔵人形	鷺崎	②⑭ 舟津人形	舟津	④⑭ 下畑人形(成立座)	下畑
⑪ 藻浦人形	藻浦	②⑮ 三瀬川人形	三瀬川	④⑮ 小倉人形(朝日座)	小倉
⑫ 関人形	関	②⑯ 大川人形	大川	④⑯ 忠兵衛人形	新穂
⑬ 矢柄人形(繁栄座)	矢柄	③① 板屋人形	大川	④⑰ 五郎左衛門人形	青木
⑭ 五郎助人形	大倉	③② 五郎兵衛人形	徳和	④⑱ 北方人形	北方
⑮ 千本人形	高千	③③ 水上人形	大崎	④⑲ 青木人形	青木
⑯ マツヨム人形(のち文楽座)	入川	③④ 大崎人形(里見座)	大崎	⑤① 瓜生屋人形(広栄座)	瓜生屋
⑰ 河内人形	北河内	③⑤ 大谷人形(大谷座)	大谷	⑤② 潟上人形(末広座)	潟上

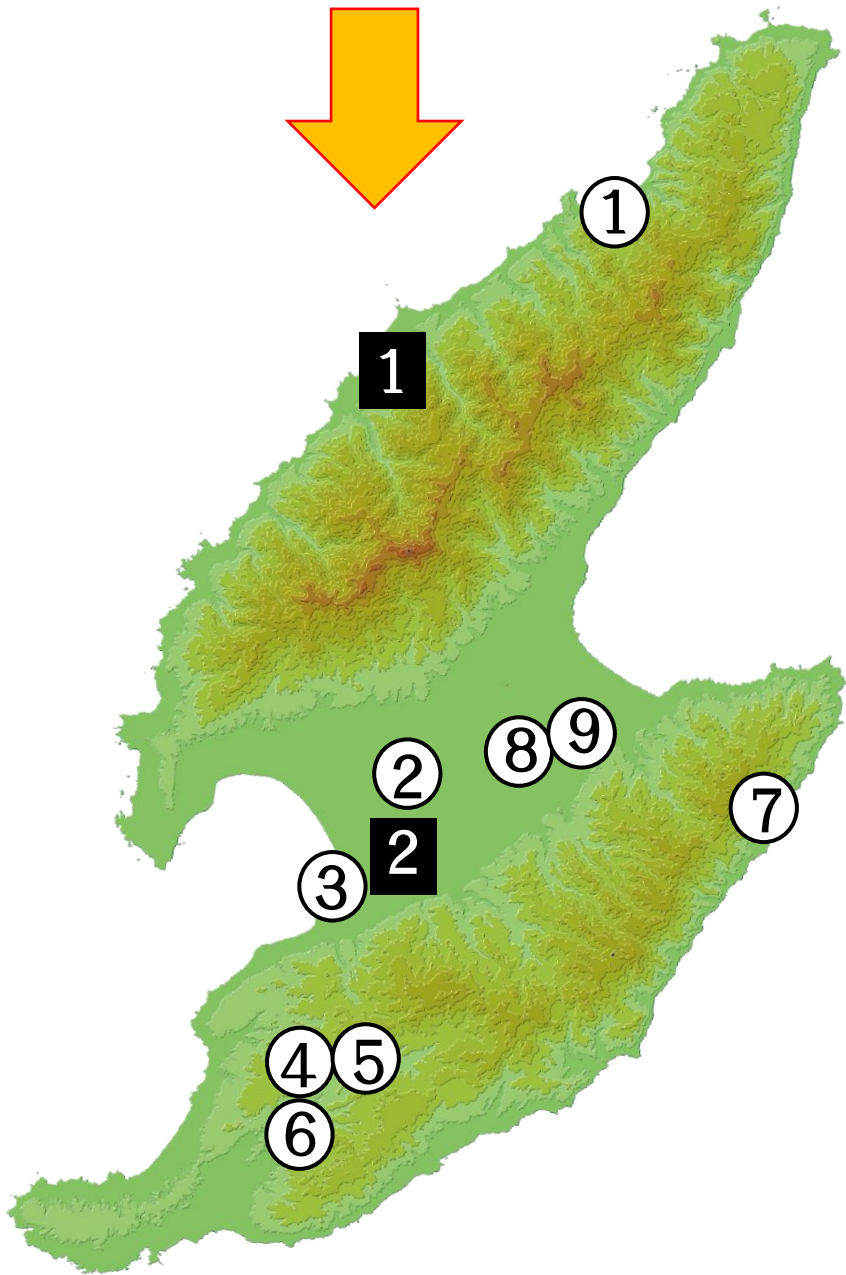
・『佐渡の人形芝居』山本修之助著 新潟日報事業者（1976）190頁から引用

現在の人形座（令和3年7月現在）

番号	座名	活動拠点
①	関栄座	佐渡市関
②	常盤座	佐渡市泉
③	真明座	佐渡市吉岡
④	大崎座	佐渡市羽茂大崎
⑤	虫紋座	佐渡市羽茂大崎
⑥	大和座	佐渡市羽茂本郷
⑦	野浦双葉座	佐渡市野浦
⑧	廣栄座	佐渡市新穂瓜生屋
⑨	新青座	佐渡市新穂瓜生屋
1	高千中学校	佐渡市高千
2	真野中学校	佐渡市吉岡



佐渡の人形座分布図



各座の声、課題等

- ・後継者がいない（＝座員不足）。
- ・上演の場、出演依頼などマネジメントまで手が回らない。
- ・若手不足。
- ・座員の高齢化に伴う先行きの不安。
- ・売り込み等の発信力が弱いところが問題。
- ・若い人に活動を知ってもらいたい。
- ・活動できる場が欲しい。
- ・後継ぎを作って辞めたい。
- ・若手の女性に参加してもらいたい。
- ・どこの地区の人でも参加してほしい。
- ・衰退をしていくだけではダメ、地道に続けていくことが一番大事。
- ・補助として人形の整備費用があると嬉しい。
- ・全国でも指折りに入るくらいの芸能をなくしたくはない。



- ・第1次調査では、各人形座からのヒアリングによって、座員の男女比や年齢層を中心に調査をして、島の人形座の実態を明らかにした。
- ・第2次調査では、第1次調査で聞き取れなかった部分を補足し、頭や小道具などの備品・所持品についても調べていく。

《参考文献》

- ・『佐渡が島人形ばなし』（1996） 著者：佐々木義栄 発行：佐渡が島人形ばなし刊行会
- ・『佐渡の人形芝居』（1976） 著書：山本修之助 発行：佐渡郷土研究会
- ・『図説 佐渡島 自然と歴史と文化』（1993） 編者：財団法人佐渡博物館 発行：新潟交通株式会社
- ・『文化財総合的モデル事業報告書 佐渡市歴史文化基本構想』（2011） 編集・発行：佐渡市教育委員会
- ・『佐渡郷土文化第156号』（2021） 発行：佐渡郷土文化の会

各人形座への「入会」や「見学」を希望される方は、（一財）佐渡文化財団
TEL0259－58－9112 までご連絡ください。各人形座へ、おつなぎいたします。

協賛、ご寄付いただきました事業所の皆様(順不同)

- ・株式会社 本間組佐渡支店
- ・有限会社 両電舎
- ・有限会社 山治屋
- ・有限会社 中川商会